

平成20年度 第2回千葉県博物館協議会議事録

日 時 平成20年11月18日(火) 13:30～16:30

場 所 千葉県立中央博物館 会議室

出席者

(委員)

明石委員《議長》 秋田委員 鶯沢委員 大森委員 小野委員 栗原委員
茂木委員 水島委員 吉野委員

(博物館・文化財課)

山口文化財課長 村山美術館長 佐久間中央博物館長 佐久間現代産業科学館長
矢戸関宿城博物館長 吉本房総のむら館長 三浦安房博物館長

日 程

開 会

博物館あいさつ

文化財課長あいさつ

議 事

(1) 地域振興への重点的な取組みについて

(2) その他

その他

閉 会

<博物館あいさつ>

近年の行財政改革の中で、博物館も厳しい「冬の時代」を迎えているが、各館職員は一丸となって県民の文化の向上に役に立てるよう懸命に努力している。委員各位には今後ともご指導ご支援を賜りたい。

<文化財課長あいさつ>

博物館の見直しについて、現在までの流れ、今後の方向性について説明

<議 事>

(1) 地域振興への重点的な取組みについて

各館から、これまでの取組み事例と今後の予定を説明

[質疑・意見]

議 長 :

6館からの説明について、ご質問ご意見がありましたらお願いします。

委員：

博物館ネットワークの見直しについて、地元市町村への移譲は安房博物館と現代産業科学館で終わりと考えているか。

課長：

基本的には、県行財政システム改革行動計画に則って博物館ネットワークの見直しを行っている。博物館の市町村移譲については、現在、市川市の方から現代産業科学館、館山市からは安房博物館を移譲してほしいとの要望があり、それらについて検討中である。その後の対応については、行財政システム改革行動計画の進捗を踏まえて、検討することとなる。

委員：

財政規模の削減目標があるのではないか。

文化財課長：

厳しい財政状況の中で、事業の再構築やイニシアチブの向上をどうすれば一番良いやり方で出来るのか、という観点で対処している。必ずしも財政的な削減だけが目標ではない。

委員：

財政再建のために、さまざまな行動計画を県は作っていると思うが、再構築によって館の新設や人員増もありうるということか。

文化財課長：

県民サービスの質の低下を避け、高める方向で努力しているので、ご理解願いたい。

委員：

予算は毎年一律にカットされているようだが、博物館・文化財行政として予算の問題には発言できない、ということか。

文化財課長：

厳しい財政状況であり、県全体の方針としてシーリングという命題は受け取ることがある。文化財課としては、予算総枠が縮小する中で、この部分は必ず守らなくてはならないという観点から対処している。

ただし、房総のむらのロケ収入のようなものや民間の資金・財団法人の資金もあり、そういったものを活用していくなど工夫の余地はある。県方針のままに財政カットするのではなく、努力しながら対処して行きたいと考えている。

委員：

博物館の今後の見通しについて、地元市町村から要望があれば、移譲の交渉に応じるのか。

文化財課長：

行動計画に則り、市町村との役割分担を見直す中で、市町村への移譲ということが始まった。青少年教育施設や博物館についても平成15年から、市町村に呼びかけている。その中で、地元市町村から要望があり、地元になじむものについては、移譲していくというのが、県の考え方です。

委員：

移譲や廃館になるかもしれない博物館について、職員や委員に知恵を出してほしいと言ったところで、机上の空論に終わるのではないか。

文化財課長：

財政事情、単年度でやっている話の中でシーリングはかかっているが、地域でより活性化が図れる博物館と情報発信機能・ネットワーク機能・専門性・シンクタンク機能など中核的な部分について、県・市町村の役割を見直して、一番良いかたちで博物館を出発しようという発想で改革行動計画がスタートしている。

委員：

美術館と大学等の研究機関との連携強化について、これがどういう地域連携で、どのようないきさつで行ったのか。美術館のリーダーシップはどの部分なのか。

博物館：

地域連携ということと、今の研究が直接小中学生のこととなるのではなく、出来上がったもので小中学校にDVD化したものを配るとか、インターネット上でキーワードを付けて、映像・画像が一人歩きしないような形で、なんとか皆さんに見ていただくとかという方法を今後検討したいと考えています。まだ途中ですのでこれから小中学生向けを検討していくという形です。

この事業はメディア教育開発センター・県総合教育センター・県立美術館の三者で役割分担している。総合教育センターは教員、メディア教育開発センターは科研費、美術館はウェブ教材を作るための資料的な問題・画像的な問題を担当している。どこがイニシアチブを取るということではなく、三者役割分担をしながらやっていこうという形である。

委員：

共同研究の最初の旗振り役はどこか。

博物館：

メディア教育開発センターです。

委員：

各館が地域振興に取り組んでいるのは、良くわかった。その中で大きな比重を占めるのが学校教育との関連だと思う。大規模館では、協力校という仕組みや夏休み企画を通じて、連携を深めている。

また、小学校の調べ学習だけでなく、中学高校での博物館利用に役立てるよう、

学校利用に関する博物館ホームページに学習指導要領との対照、引率教員の創意工夫を反映できる構成、学年毎の標準的な学習所要時間などを示して、内容の充実を図ってほしい。

議長：

博物館の教材作りに学校側の蓄積を活かしてほしい。

小学3・4年生が博物館に最も興味を示すので、そのポータルサイトを作してほしい。

委員：

中央博物館では生物学・生態学的な物が多く、現代産業科学館では最先端のDNAの展示があるのに、PR不足ではないかと思う。ボランティア活用を推進すれば、財政・人員問題にも役立つのではないか。学校のカリキュラムにあったシニアボランティアの育成に力を入れてほしい。

議長：

例えば、「現代産業科学館を体験して千葉大の飛び級に入ろう」とか「中央博物館を体験してノーベル賞にチャレンジしよう」というようなキャッチコピーで、子どもたちが夢を描けるような仕掛けが出来ないか。

委員：

房総のむらについては、観光化しすぎることを懸念する。枝打ち、下草刈り、昔からの伝統技術の継承、化学物質を使わない生態的な防除技術など博物館として本物を伝え残してほしい。里山保全や再生を考え、生活技術や文化をトータルに体験できるメニューを考えてほしい。NPOとの連携も一つの方策である。

(2) その他

[質疑・意見]

議長：

それでは「その他」について検討してまいります。

委員：

博物館を使って子どもたちに科学の楽しみを分かってもらおうという観点から、博物館の在り方検討会に市川市からも参加してもらってはどうか。

議長：

教育庁内のプロジェクトがあり、これに外部委員が参加して、博物館全体の骨太プランを作るのですね。

文化財課長：

行財政改革・システム行動計画との調整が必要であるが、博物館はどうあるべきか、という御意見をお聞きしていきたい。

委 員：

外部委員や庁内プロジェクトが検討した結果、市町村移譲ということになったのではないかと。

文化財課長：

市町村で運営した方が今後ますます良くなるという施設もあるかもしれない。市町村移譲は絶対に認めないのではなく、博物館のあり方に関する検討結果をふまえて、建設的にやって行きたいと考えている。

委 員：

博物館の市町村移譲について、やむをえず応じているとの印象がある。

文化財課長：

我々は、そう理解していない。県立ではなく、市町村立として活性化を図ることで県民サービスの向上につながる場合もある。県職員だけでなく、ボランティアを組み入れた博物館運営という発想も必要だと思う。

委 員：

かつて美術館に勤め、予算カットと展示カットを経験した。各館でも知恵を出し合っていると思うので、予算の確保よろしくお願いします。

委 員：

県立館として維持するために努力してきた館職員のことを踏まえていただきたい。

委 員：

移譲の場合の運営体制の継続が大切。

議 長：

厳しい予算削減の中で文化行政の質を保つために、今後のために骨太の方針を作るべきである。移譲が検討されている安房博物館や現代産業科学館の質を保つ方向を県が示す必要がある。